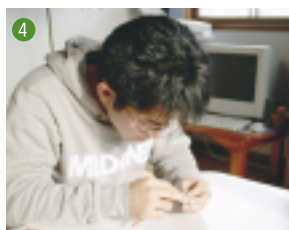


手仕事が生む

山陰の Art Box vol.4

山陰で創作活動を行う若手職人の豊かな想像力で作り出される作品。
手仕事のぬくもりが伝わってくるような、そんな作品に注目!



作／坪倉克弥 作品 シルバーリング

銀粘土から作る
”世界でひとつのアクセサリ”

モノマガジンやシルバークセサリーの本などに作品が紹介されている米子市在住の坪倉克弥さん。彼はシステムエンジニアの肩書きを持つ会社員。シルバークセサリー作りは趣味で、特に販売しているわけではないが、彼のホームページで作品を見た出版社から問い合わせがあり、取り上げられることになったという。坪倉さんが作るシルバークセサリーは銀粘土（シルバー99.9%）から作られている。粘土というだけあってどんな形にでもできてしまう。イメージした形に形成し、乾燥させ電気炉で焼き上げ、ヤスリなどで磨き上げれば完成。作品はリング、ネックレス、ピアスなど。特に個性が出ているのは、”動き”のあるリング。チェーンのようにつなぎ合わせたり、腕時計のバックルのようなデザインにしたりと細かな作業・技術がいる作品だ。基本的にシンプルなものが好き、という彼の作品は男女問わず使えるデザインが魅力。米子市の雑貨屋「チャントック」の企画展などで時々販売しているそうなのでチェックしてみよう。

システムエンジニアとシルバークセサリー作りの共通点は、”作る”こと。作る”ことへの興味は尽きることがなく、坪倉さんにとって、作る”ことはライフスタイルの中心になっている。

①リング、ネックレスそれぞれにデザインされている葉っぱのようなこの柄はよく使うデザインだとか。また作品のすべてに克弥の「K」が刻印されている。
②金属アレルギーの人でも安心して着けられるものと考えてデザインしたという、革の内側に内蔵したリング。
③純銀粘土にヤスリ、サンドペーパー、電気炉などの道具が揃う。最近では手軽にシルバークセサリー作りができるスターターキットが通販で売られているので、興味のある人はチェックしてみてください。
④ヘラで磨き、ツヤツヤの仕上がりになっている。その他、マットな仕上がりになったり、黒ずませたりと様々なタイプのアクセサリを作ることができる。
⑤子供の頃から作ることが好きで、もちろん図画工作は得意だったという坪倉さん。制作時間はリング1個なら2時間くらいだとか。とにかく手先が器用な人だ。